

# 検査異常値医師スマホへ

## 群大病院 自動通知システム開発

群馬大学病院は、血液検査などで緊急対応が必要な異常値が出た場合、自動的に医師へ知らせるシステムを開発した。年内に試験運用を始め、将来的には製品化を目指す。11月21日から横浜市で開かれる医療情報学連合大会で発表する。

同病院では、患者が受けた血液や尿などの検査結果が出る時、通常、検査技師が検査値を確認している。命に関わるような異常値が出た場合は、医師に電話で連絡するが、適切な対応が遅れることもあり課題となっていた。

院内用のスマートフォンに直接、通知が届く。医師は専用の閲覧システムに接続し、画面で検査値を確認できる。検査技師が口頭で伝えた場合に起こる恐れがある数値の聞き間違いなどのミスも防ぐことができるという。

検査結果で異常値が出ると赤く色づけされて、医師が持つスマホの画面に表示される

気づかなかった場合は不在通知が残り、あらかじめ登録された順番で別の医師に通知が届く仕組みだ。また、検査結果は院内にいる時しか閲覧できない。医師の持つスマホにも保存されないようにし、院外に情報を持ち出せない対策も

取った。システム開発を担当した群馬大学病院システム統合センターの鳥飼幸太・副センター長は「医師が検査の異常値を見逃すミスを

血液などの検査実施



①検査結果送信



異常値を判定するシステム

③通知を受け取った医師が閲覧システムにアクセスし、検査結果を確認

②緊急対応が必要な異常値が出たら医師のスマホへ自動的に通知



緊急対応が必要な異常値が出た時に医師に自動で通知するシステム

減らせる。適切な治療を迅速に行うことにもつながり、患者が命を落としたり重症化したりするリスクを少なくできると思う」と話している。

